

科目名称	作業療法評価学
授業コード	AE202
英語名称	Clinical Assessment in Occupational Therapy II
学期	2024年度前期
単位	1.0
担当教員	長谷川 辰男, 小橋 一雄, 澤田 有希
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	身体障害を持つ対象者への作業療法実施に必要な不可欠である作業療法評価を教授する。学生は、障害を理解し、身体障害の理論、概念、用語を学習する。さらに、代表的な検査・測定の目的、意味、具体的な実施技術の知識を獲得する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本科目は上記内容について作業療法専門分野で業務に従事していた実務経験のある教員による実践的科目である。それぞれの教員が作業療法士としての臨床経験をもとに講義及び実技をする。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「様々な側面から対象者を全人的・統合的に理解する上不可欠な基礎医学的知識および作業療法を理解し基本的な臨床技能を実践できる。【知識・技能】「科学的根拠に基づき、作業療法を実践するための基本的な科学的思考力、問題解決能力を修得している。【科学的思考力】」ために、以下を目標とする。 1) 運動器障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について学ぶ。 2) 神経障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について学ぶ。
計画・内容	1) オリエンテーション / 意識の評価およびバイタルサインチェック 担当：小橋 2) 関節可動域測定 担当：長谷川（上肢） 3) 関節可動域測定 担当：長谷川（手指） 4) 関節可動域測定 担当：長谷川（下肢） 5) 関節可動域測定 担当：長谷川（体幹） 6) 筋力検査（握力・ピンチ力・徒手筋力検査） 担当：小橋（上肢 - 肩、肘） 7) 筋力検査（握力・ピンチ力・徒手筋力検査） 担当：小橋（上肢 - 前腕、手指） 8) 筋力検査（握力・ピンチ力・徒手筋力検査） 担当：小橋（下肢 - 股） 9) 筋力検査（握力・ピンチ力・徒手筋力検査） 担当：小橋（下肢 - 膝、足） 10) 機能形態計測 1（四肢長、周径など） 担当：澤田 11) 機能形態計測 2（四肢長、周径など） 担当：澤田 12) 反射および筋緊張検査の評価 担当：澤田 13) 反射および筋緊張検査の評価 担当：澤田

計画・内容	<p>14) 脳神経の評価 担当：小橋</p> <p>15) 呼吸・循環・代謝の評価（呼吸器疾患・循環器疾患の評価を含む）担当：小橋</p> <p>担当教員 小橋 一雄：作業療法士 長谷川辰男：作業療法士 澤田 有希：作業療法士</p>
授業の進め方	教科書、配布資料を使用し講義及び演習を行う。
能動的な学びの実施	学生への質問を活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと（各回1時間～2時間） ・教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。（合計60時間程度）
教科書・参考書	<p>教科書：能登真一、山口 昇ら：作業療法評価学 第3版、医学書院 2018、5800円 < PT・OTのための測定評価DVD Series > 3 MMT 頭部・頸部・上肢【第2版】(三輪書店 4600円+税) 2016 < PT・OTのための測定評価DVD Series > 3 MMT 体幹・下肢【第2版】(三輪書店 4000円+税) 2016</p> <p>参考図書 新・徒手筋力検査法 原著第10版[Web動画付] 協同医書出版社 10995円 2020</p>
成績評価方法と基準	筆記試験（100％）
課題等に対するフィードバック	学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	前期科目「神経・筋系障害と臨床医学」、「内部障害と臨床医学」、「骨関節障害と臨床医学」で習ったところの疾病や障害を復習しておくこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方 Zoomミーティングおよび課題提出で行う。</p> <p>成績評価方法の基準 提出課題の内容等により成績評価を行う。(100%)</p>